



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年1月31日

上場取引所 東大

上場会社名 エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社
コード番号 8242 URL <http://www.h2o-retailing.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 若林 純

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 森 忠嗣

TEL 06-6365-8120

四半期報告書提出予定日 平成25年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	385,704	2.2	7,704	△8.0	8,590	△3.6	4,747	202.8
24年3月期第3四半期	377,242	8.4	8,376	△7.7	8,913	△9.9	1,567	△65.0

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 5,128百万円 (97.7%) 24年3月期第3四半期 2,594百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	24.45	24.37
24年3月期第3四半期	8.55	8.10

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	363,717	171,550	46.7
24年3月期	335,230	168,854	49.9

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 169,996百万円 24年3月期 167,330百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	6.25	—	6.25	12.50
25年3月期	—	6.25	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	6.25	12.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	535,000	5.8	11,000	10.5	11,500	11.5	6,200	486.5	31.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期3Q	206,740,777 株	24年3月期	206,740,777 株
25年3月期3Q	12,579,443 株	24年3月期	12,571,631 株
25年3月期3Q	194,165,604 株	24年3月期3Q	183,283,960 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載の連結業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P.4「1. (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
4. 補足情報	
株式会社阪急阪神百貨店の業績について	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日～平成24年12月31日）における当社グループの業績は、第2四半期までは株式会社阪急阪神百貨店において、阪急うめだ本店のグランドオープンに向けた最終工事による既存売場の面積減少の影響がありましたが、平成24年11月21日のグランドオープン後は大幅な増収となり、グループ全体の売上高は増収に転じました。

また、営業利益についても第3四半期の3ヶ月間で百貨店事業が増益となったことを受け、減益幅が縮小しました。なお、四半期純利益につきましては、モザイク銀座阪急退店に伴う受取補償金を8月に特別利益に計上したことなどにより、大幅に増加しました。

《連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	385,704	102.2
営業利益	7,704	92.0
経常利益	8,590	96.4
四半期純利益	4,747	302.8

セグメント別の概況は次の通りであります。

【百貨店事業】

平成17年度より建て替え工事を進めてきた阪急うめだ本店は、平成24年10月25日に二期棟を先行オープンし、同年11月21日にはグランドオープンを迎えました。約80,000㎡という売場面積を最大限に活用し、全体の2割を非物販面積にあてるなど、「劇場型百貨店」・「情報リテイナー」としての百貨店の実現に向けた新しい店作りに挑戦いたしました。二期棟開業後は、9階にある4層吹き抜けの祝祭広場などが大きな話題を呼び、入店客数が前年に比べ約2倍に増加し、売上高は前年同期比で約1.6倍となりました。これらの結果、引き続き好調に推移した阪急メンズ大阪を加えた阪急本店の第3四半期累計期間の売上高は99,424百万円、前年同期比104.5%となりました。

一方、阪神梅田本店では、阪急うめだ本店のグランドオープンの影響を受け、11月以降は前年実績を下回り、同累計期間の売上高は68,209百万円と前年同期比98.6%となりました。

また、支店では、平成23年3月に開業した博多阪急が7月までは開業景気の反動を受けましたが、その後5ヶ月連続で前年を上回り推移するとともに、引き続き西宮阪急が好調に推移し、平成24年3月に閉店した神戸阪急を除く既存支店ベースでの売上高前期比は100.6%と堅調に推移いたしました。

これらの結果、百貨店事業の業績は、以下の通りとなりました。

《百貨店事業の業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	278,712	99.1
営業利益	5,180	108.9

【スーパーマーケット事業】

食品スーパー“阪急オアシス”を運営する株式会社阪食では、本年度も引き続きスクラップアンドビルドと既存店の収益力の強化を進めました。具体的には、本年度は9月に阪急オアシス西田辺店（大阪市阿倍野区）、11月に同あびこ店（大阪市住吉区）そして12月には同伊丹大鹿店（兵庫県伊丹市）の3店を出店する一方で、阪急ファミリーストア上六店（大阪市天王寺区）など2店を閉鎖いたしました。

また、競合環境の激化や価格競争が厳しい状況が続く中、阪急オアシス御影店など5店の改装を実施し、既存店ベースの売上高前年同期比は97.7%となりました。この結果、新店を加えた株式会社阪食の業績は増収となり、営業利益もほぼ前年並みを確保しました。

一方、製造子会社では生産性の向上に引き続き取り組み、スーパーマーケット事業の業績は以下の通りとなりました。

《スーパーマーケット事業の業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	70,353	101.6
営業利益	1,366	98.5

【PM（プロパティマネジメント）事業】

株式会社大井開発では、運営する阪急大井町ガーデンにおいて、ビジネスホテル「アワーズイン阪急」が前年同時期に比べ客室稼働率が大きく向上した結果、業績を伸ばす一方で、商業施設の管理運営を行う株式会社阪急商業開発では、平成24年8月末のモザイク銀座阪急閉鎖や同10月のモザイクモール港北の大規模改装に伴う工事の影響もあり減益となり、PM事業の業績は以下の通りとなりました。

《PM（プロパティマネジメント）事業の業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	10,044	105.5
営業利益	1,276	99.2

【その他事業】

その他事業におきましては、平成23年9月に株式会社家族亭を子会社化したことにより、大幅な増収となりました。一方、営業利益につきましては、既存子会社では23社中11社で営業利益が改善いたしましたが、平成23年秋より首都圏で宅配事業を開始した株式会社阪急キッチンエール東京は、事業開始に伴い経費増となりました。

これらの結果、その他事業の業績は以下の通りとなりました。

《その他事業の業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	26,593	154.4
営業利益	793	45.5

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は363,717百万円となり、前連結会計年度末に比べ28,487百万円増加しました。これは、阪急うめだ本店のグランドオープンなどに伴い有形固定資産が16,905百万円増加したほか、季節要因により、受取手形及び売掛金が12,891百万円増加したことなどによるものです。

負債合計は192,166百万円となり、前連結会計年度末から25,790百万円増加しました。これは、季節要因により、買掛金が14,279百万円増加したほか、短期借入金が増加したことなどによるものです。

また、純資産は171,550百万円となり、前連結会計年度に比べ2,696百万円増加しました。これは、利益剰余金が2,320百万円増加したほか、株式含み益の増加により、その他有価証券評価差額金が336百万円増加したことなどによるものです。

なお、自己資本比率は46.7%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間の業績はほぼ予定通り推移しており、平成24年10月31日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,823	17,604
受取手形及び売掛金	19,979	32,871
有価証券	206	106
商品及び製品	14,369	17,351
仕掛品	122	309
原材料及び貯蔵品	967	826
繰延税金資産	4,849	2,537
未収入金	2,545	3,639
その他	2,486	2,640
貸倒引当金	△42	△74
流動資産合計	63,307	77,812
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	62,406	78,484
機械装置及び運搬具（純額）	1,987	2,113
土地	35,324	35,871
建設仮勘定	3,708	1,330
その他（純額）	5,680	8,211
有形固定資産合計	109,106	126,011
無形固定資産		
のれん	17,107	16,321
その他	8,189	8,586
無形固定資産合計	25,297	24,908
投資その他の資産		
投資有価証券	64,300	68,188
長期貸付金	2,607	2,647
差入保証金	57,372	49,664
繰延税金資産	9,575	10,405
その他	3,790	4,217
貸倒引当金	△127	△138
投資その他の資産合計	137,518	134,984
固定資産合計	271,922	285,904
資産合計	335,230	363,717

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	32,444	46,723
1年内償還予定の社債	35	35
短期借入金	40	12,005
1年内返済予定の長期借入金	650	602
未払法人税等	1,068	2,422
繰延税金負債	0	0
商品券	19,716	20,989
賞与引当金	4,299	1,573
資産除去債務	1,264	293
その他	29,370	29,089
流動負債合計	88,891	113,736
固定負債		
社債	34	17
長期借入金	41,557	41,388
繰延税金負債	10,546	10,394
再評価に係る繰延税金負債	310	310
退職給付引当金	15,456	15,658
役員退職慰労引当金	150	170
商品券等回収引当金	1,742	1,927
長期末払金	1,463	2,362
長期預り保証金	5,870	5,728
資産除去債務	224	256
その他	128	216
固定負債合計	77,484	78,429
負債合計	166,375	192,166
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,796	17,796
資本剰余金	48,257	48,258
利益剰余金	95,258	97,578
自己株式	△118	△125
株主資本合計	161,194	163,507
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,619	6,955
土地再評価差額金	81	81
為替換算調整勘定	△564	△547
その他の包括利益累計額合計	6,136	6,488
新株予約権	341	341
少数株主持分	1,182	1,212
純資産合計	168,854	171,550
負債純資産合計	335,230	363,717

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	377,242	385,704
売上原価	272,611	280,646
売上総利益	104,630	105,057
販売費及び一般管理費	96,253	97,352
営業利益	8,376	7,704
営業外収益		
受取利息	61	52
受取配当金	824	823
諸債務整理益	1,084	1,164
その他	557	553
営業外収益合計	2,527	2,593
営業外費用		
支払利息	305	299
商品券等回収引当金繰入額	811	937
その他	873	470
営業外費用合計	1,990	1,707
経常利益	8,913	8,590
特別利益		
受取補償金	—	6,000
固定資産売却益	—	142
段階取得に係る差益	260	—
特別利益合計	260	6,142
特別損失		
新店舗開業費用	—	2,684
店舗等閉鎖損失	—	1,505
固定資産除却損	151	1,497
減損損失	—	28
人事制度改編に伴う一時費用	5,282	—
店舗建替関連損失	280	—
投資有価証券評価損	277	—
特別損失合計	5,991	5,715
税金等調整前四半期純利益	3,182	9,017
法人税、住民税及び事業税	927	3,049
法人税等調整額	683	1,192
法人税等合計	1,611	4,242
少数株主損益調整前四半期純利益	1,571	4,775
少数株主利益	3	28
四半期純利益	1,567	4,747

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,571	4,775
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,006	336
土地再評価差額金	46	—
為替換算調整勘定	△30	16
その他の包括利益合計	1,022	353
四半期包括利益	2,594	5,128
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,588	5,099
少数株主に係る四半期包括利益	5	28

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	百貨店 事業	スーパー マーケット 事業	PM事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	281,240	69,261	9,516	17,223	377,242	—	377,242
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	157	3,553	2,804	11,479	17,993	△17,993	—
計	281,397	72,814	12,320	28,702	395,235	△17,993	377,242
セグメント利益	4,755	1,387	1,285	1,744	9,173	△796	8,376

(注) 1. セグメント利益の調整額△796百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「その他事業」セグメントにおいて、エブリデイ・ドット・コム株式(現阪急オレンジライフ株式)の追加取得による同社の子会社化に伴い、第1四半期連結会計期間より、また、家族亭株式の公開買付けによる同社の子会社化に伴い、第2四半期連結会計期間よりそれぞれののれんを計上しております。なお、第2四半期連結累計期間に未了でありました株式会社家族亭の取得原価の配分が完了し、新たに無形固定資産が認識・評価されたことにより、のれんが減少しております。また、株式会社家族亭による中野食品株式の取得による同社の子会社化に伴い、「その他事業」セグメントにおいて、当第3四半期連結会計期間よりののれんを計上しております。これらの事象によるのれんの純増加額は、当第3四半期連結累計期間においては2,080百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	百貨店 事業	スーパー マーケット 事業	PM事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	278,712	70,353	10,044	26,593	385,704	—	385,704
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	238	3,474	2,957	12,578	19,249	△19,249	—
計	278,951	73,828	13,002	39,172	404,954	△19,249	385,704
セグメント利益	5,180	1,366	1,276	793	8,616	△911	7,704

(注) 1. セグメント利益の調整額△911百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

平成24年11月に阪急うめだ本店がグランドオープンしたこと等により、前連結会計年度末に比べ、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの資産の金額は、「百貨店事業」セグメントにおいて27,987百万円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

平成24年11月の阪急うめだ本店のグランドオープンにあわせ、スポーツ用品売場、ベビー・子供服売場が本店へ移設されるため、第2四半期連結会計期間において、阪急百貨店イングス館の閉店を決定しました。これに伴い、「百貨店事業」セグメントにおいて、減損損失を認識いたしました。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては763百万円であり、特別損失の店舗等閉鎖損失に含めて表示しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 補足情報

株式会社阪急阪神百貨店の業績について

(1) 当第3四半期累計期間の業績

(単位:百万円)

	当第3四半期累計期間	
	金額	前年同期比
売上高	277,881	99.1%
売上総利益	68,696	99.2%
その他の営業収入	1,070	105.4%
営業総利益	69,766	99.3%
販売費及び一般管理費	64,072	98.4%
営業利益	5,693	110.1%

(2) 店別売上高

(単位:百万円)

	当第3四半期累計期間	
	金額	前年同期比
阪急本店 (注)1	99,424	104.5%
千里阪急	13,068	99.5%
堺 北花田阪急	7,582	99.8%
川西阪急	13,473	97.8%
宝塚阪急	6,737	99.8%
西宮阪急	17,958	104.6%
三田阪急	1,045	98.8%
博多阪急	27,220	99.1%
阪急メンズ東京 (注)2	8,375	133.6%
阪急百貨店 大井食品館	3,443	94.4%
都筑阪急 (注)3	4,691	81.1%
阪神梅田本店	68,209	98.6%
あまがさき阪神	2,843	102.4%
阪神・にしのみや	3,374	98.4%
阪神・御影 (注)4	431	58.2%
合計	277,881	99.1%

(注)1 阪急メンズ大阪、インクス館(阪急うめだ本店へ売場を移設し、平成24年11月18日閉館)を含む。

(注)2 平成23年7月19日から10月14日まで有楽町阪急を改装のため休業し、平成23年10月15日阪急メンズ東京として開店。

(注)3 平成24年10月3日 2～4階部分をショッピングセンターに業態変更し、これに伴う収益は(株)阪急商業開発にて計上。

(注)4 平成23年7月24日 2階部分の営業終了。

(3) 商品別売上高

(単位:百万円)

	当第3四半期累計期間	
	金額	前年同期比
衣料品	90,284	97.1%
身の回り品	44,800	105.8%
家庭用品	9,263	91.6%
食料品	94,180	98.4%
食堂・喫茶	6,877	114.5%
雑貨	29,530	98.4%
サービス	1,749	92.0%
その他	1,196	95.9%
合計	277,881	99.1%